

4 次年度以降の計画

§ 1.4 に示した「事業の成果目標及び計画」を達成するため、平成 27 年度以降は、平成 26 年度に開発した教育プログラム(カリキュラム、教材)にしたがって、実際に教育プログラム(大学院修士課程)の試行運用を行い、事業アーキテクト養成のための基盤を構築する。また、平成 26 年度から継続して、学び直し機運の醸成のために学び直し啓発のための学修コミュニティイベント(起業塾)等の企画・開催、教育プログラムの効果を高めるために社会人のキャリアアップの仕組みの開発、教育プログラムの普及のためにワークショップ開催等を進める。

平成 27 年度及び平成 28 年度の活動目標(アウトプット)は § 1.4.1 を、成果目標(アウトカム)は § 1.4.2 を、事業計画は § 1.4.3 を参照されたし。

4.1 平成 27 年度計画

平成 27 年度計画を表 8 に示す。平成 27 年度は、平成 28 年度開講予定の PBL 型科目等の教材・事例の調査・開発・実証実験と、PBL 及び事例研究の教育効果を高めるため、産業界から講師(専門家)を招聘して、集中型の PBL キャンプ、教員研修を開催する。

また、

平成 27 年度からの試行運用を行う教育プログラムに対しては、各種の評価・調査(デザイン学・Industrie 4.0 等の新しい潮流、在学生・修了生・外部委員・一般に対してアンケート等)・考察から、授業科目(創造技術専攻提案の科目等)の新設・知識単位の修正・調整を行う等の PDCA による継続的改善を実行する。当教育プログラムの知識体系では、起業関係等の知識単位の反映等、知識体系の再整理を行い、また妥当性の調査・議論を行う。

表 8: 平成 27 年度計画

4 月	教 育 プ ロ グ ラ ム の 試 行		社会人学び直し推進委員会①、プログラム開発作業部会①
5 月			プログラム開発委員会①、プログラム開発作業部会②
6 月		起業塾①	プログラム開発作業部会③
7 月		Web 記事①	プログラム開発委員会②、プログラム開発作業部会④
8 月		起業塾②	実証実験①、教員研修
9 月			社会人学び直し推進委員会②、実証実験②、教員研修、PBL キャンプ
10 月		起業塾③	
11 月		Web 記事②	
12 月		起業塾④	

1月	運 用		プログラム開発委員会③
2月			社会人学び直し推進委員会③、外部評価委員会、関係者対象ワークショップ
3月			事業成果報告書

4.2 継続性

当教育プログラムは、平成 25 年度の運営諮問会議で答申された本学情報アーキテクチャ専攻及び創造専攻の両専攻横断型のイノベーション人材養成のためのカリキュラムに相当する。したがって、事業期間中の平成 27 年度から当事業で開発する教育プログラムを順次評価するため、両専攻横断型の事業アーキテクトコースとして試行設置する。試行設置の評価から教育プログラムの有効性を確認し、事業期間終了後も、今回設置する両専攻横断型のコースとして継続して設置を維持する計画である。また、本学では、社会人学び直しの重要性は十分に理解しているため、当教育プログラムの志願者増を想定し、将来の専攻改編も視野にいれている。これらは、平成 27 年度から本学の将来構想を議論する委員会を全学的に設置し、議論を行う計画である。

本学は今まで教員の任期制をとってきた経緯から、教員評価は教育・研究・組織運営・社会貢献の 4 項目で行われている。学内体制は、本学での教員評価項目の中で教育活動に関して、本教育プログラムを推進する教員の評価を高める等、教員の誘因及び動機を重視した体制を取ることで、事業の継続性を確実にすることができる。産学連携体制は、運営諮問会議を中核とした連携体制を維持し、産業界からの意見を反映し、教育内容の改善を継続する。財源に関しては、本学の一般財源費により、本事業を継続する体制の維持、特に当事業の継続に必要とされる非常勤講師等の人件費の予算措置が可能である。

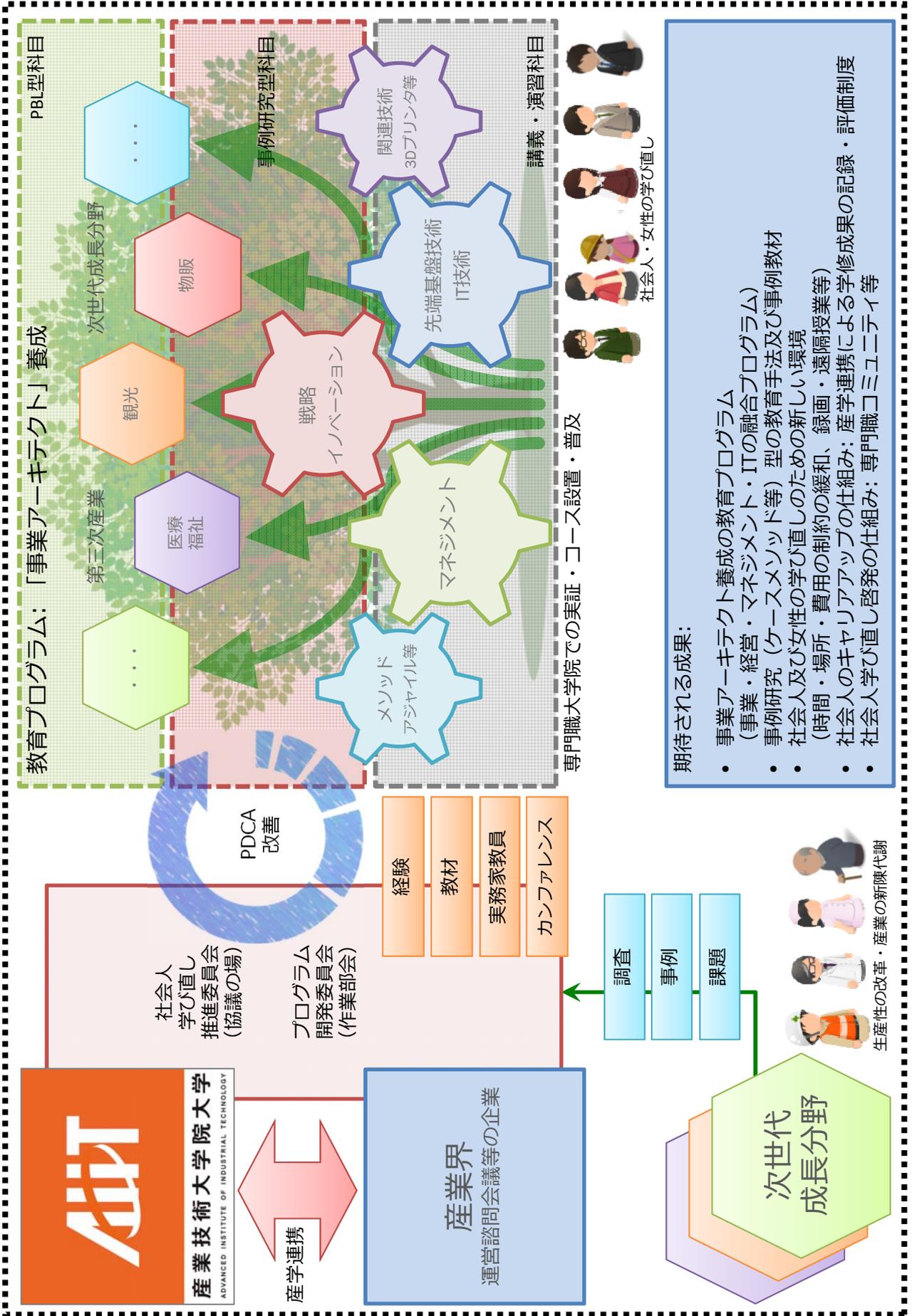
5 付録

- 5.1 当事業のイメージ図
- 5.2 成果報告 発表資料
- 5.3 大学院説明会 資料
- 5.4 シラバス
- 5.5 履修の手引（抜粋）
- 5.6 時間割
- 5.7 学生ガイダンス 資料
- 5.8 教育訓練給付制度 資料

※選定時公表

(様式1) (別紙1)

「次世代成長分野での事業開発・事業改革のための高度人材養成プログラム」(産業技術大学院大学)



5.2 成果報告 発表資料

平成26年度 文部科学省 委託事業
「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」
**次世代成長産業分野での
事業開発・事業改革のための
高度人材養成プログラム
事業成果報告**

公立大学法人 首都大学東京
産業技術大学院大学

目次

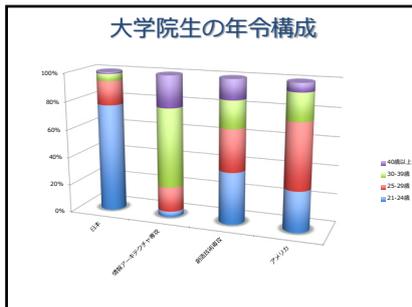
- 事業概要等
 - 文部科学省 委託事業 公募概要
 - 産業技術大学院大学 概要
 - 背景、目的、成果目標
 - 体制・委員会構成、委員一覧
- 教育内容
 - 科目一覧
 - 新設科目
- 試行運用（「事業アーキテクト」教育プログラム）
- 一般対象イベント（起業塾等）
- 学修成果の記録・評価

文部科学省 委託事業 公募概要

- 高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム
 - http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/manabinaoshi/index.htm
 - 我が国及び諸外国の社会構造が変革する中で、今後、我が国の経済が成長軌道に乗って一層の発展を期するためには、国内外の成長産業分野で、各企業等の成長を牽引できる高度人材が不可欠である。このため、当プログラムでは、大学院と産業界等が協働して、社会人を対象に、キャリアアップに必要とされる高いレベルの知識・スキルが修得できる大学院プログラムを開発・構築し、普及する取組によって、成長産業分野での高度人材養成を図るとともに、大学院教育（修士課程レベル）での社会人の学び直しを推進する。
- 《要件》
 - 社会人の学び直し（女性の学び直し）
 - 成長分野（IT以外）での高度人材養成（キャリアアップ）
 - 大学院教育プログラム開発（修士課程レベル）
 - 産学連携

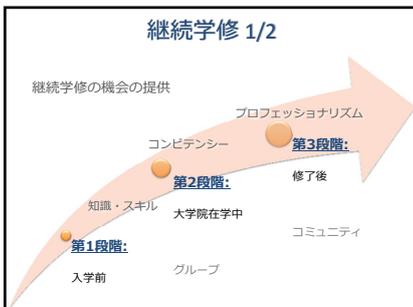
産業技術大学院大学

- 設置者: 公立大学法人 首都大学東京（東京都 独立行政法人）
- 住所: 〒140-0011 東京都品川区東大井1-10-40
- 産業技術研究科（専門職大学院）
 - 情報アーキテクチャ専攻（平成18年4月設置）
 - 創造技術専攻（平成20年4月設置）
- 特徴
 - 社会人の学び直し → 学生の約80%が社会人・継続学修
 - 高度人材養成・大学院（修士課程） → 専門職大学院
 - 産学連携 → 運営諮問会議等



社会人が学修するための仕組み

- 《時間的及び場所的制約》
 - 平日夜間・土曜昼間の授業開講、科目等履修生・A1T単位(バンク)制度、長期履修生制度、修学年限通算(早期修了)制度、4学期制、4月・10月入学、授業動画の配信、ブレンドディッドラーニング、遠隔授業・秋風原サテライトキャンパス、IT環境
- 《経済的負担》
 - 科目等履修生・A1T単位(バンク)制度(再掲)、奨学金・授業料減免等、高度実践教育訓練給付金制度、修学年限通算(早期修了)制度(再掲)、修学費用のファクトシート
- 《学習成果の評価》
 - 修得知識の確認、ディプロマサプレメント・エキスパート制度、ラーニングフェロー制度
- 《ほか》
 - 社会人のための教育手法、専門職コミュニティ、授業外の勉強会・懇親会、図書館・演習室等、キャリア開発支援、説明会、既単位取得授業科目の再履修、社会人特別入試・企業推薦入試



継続学修 2/2

- 第1段階: 学修準備
 - 各種勉強会 → InfoTalk (現在75回)、July Tech Festa (500名規模) 等
 - 附属図書館 → 無料
 - A1T単位バンク制度 → 入学すると学費返還
 - 履修証明プログラム → 短期間で専門分野の学修
 - プロジェクトマネジメント、HCD等
 - ブレスクール (e-learning及び集中講義)
- 第2段階: 在学中
 - 1年次: 授業(講義、演習等) → 知識・スキルの修得・定着
 - 2年次: PBL → 業務遂行能力(コンピテンシー)の修得
- 第3段階: 修了後
 - 専門職コミュニティ
 - 切磋琢磨する継続学修の機会 (KHP等)
 - プロフェッショナリズム(専門職意識)の醸成
 - 高度専門職(ITSSレベル6以上)への成長

当事業の背景

- 《当事業の対象領域》
 - 次世代成長分野(観光・物販・医療等の第三次産業等)
- 現在、生産性・付加価値の改革、産業の新陳代謝が期待されている
- 《規模》持続的成長(1997年から2012年の15年間)
 - GDP比率: 第三次産業 68.3% → 74.9%、第二次産業 30.0% → 23.9% (内閣府「国民経済計算」)
 - 就業者比率: 第三次産業 61.9% → 71.4% (総務省「労働力調査」)
 - 現在まで日本の経済を牽引してきた製造業等の第二次産業に代わって、今後の経済成長での次世代成長分野として期待されている。
- 《問題》生産性・付加価値の低さ
 - 日本の非製造業(第一次産業及び第三次産業)の生産性(TFP: Total Factor Productivity)は特に関心。1970年から2007年の約40年間で製造業のTFPは約2.9倍であるのに対し、非製造業のTFPは約1.3倍に留まっている(経済産業研究所BLL「失われた20年」と日本経済)。
- 《改革》
 - 徹底した業務マネジメントとIT技術の活用(製造業のTFPの上昇の1要因)
 - 産業の新陳代謝、イノベーション、破壊的技術等

目的

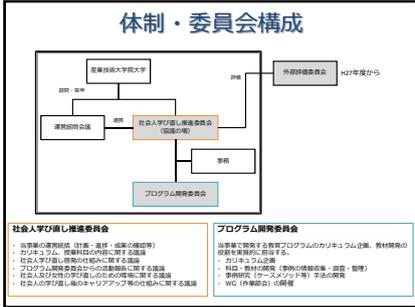
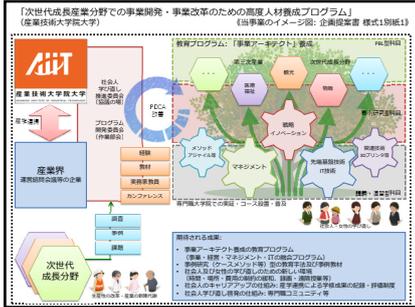
- 従来の仕組みを改革し、当該成長産業分野の加速度的成長を実現する「事業アーキテクト」養成プログラムの開発・普及
- マネジメントとIT技術等の破壊的技術を駆使し、イノベーションを誘発し、産業の新陳代謝を引き起こすべく、事業開発を効率・効果的に実行し、生産性・付加価値を高める。
- 事業開発として、実際に描いた戦略から事業の構築、運用までを実現できる。
- 《修得する知識・スキル等》
 - 戦略（経営、マーケティング、リーダーシップ、スタートアップ等）
 - 技術（IT、製品開発、デザイン、マネジメント等）
 - 当該分野の業務知識・現状・課題
 - 各種のメソッド及びITツール（課題管理、CRM、コラボレーション等）
 - 法規・倫理
 - 事例研究及びPBL（Project Based Learning）

成果目標

- 「事業アーキテクト養成」の教育プログラム
 - 戦略・マネジメント・IT技術等の融合型プログラム
 - 新設科目（講義×6科目、事例研究・PBL×4科目）及び既存科目
- 事例研究（ケースメソッド等）型の教育手法及び事例教材
- 社会人及び女性の学び直しのための新しい環境
 - 時間・場所・費用の制約の緩和、録画・遠隔授業等
- 社会人のキャリアアップの仕組み
 - 産学連携による学修成果の記録・評価制度
- 社会人学び直し啓発の仕組み
 - 学び直し啓発イベント（専門職コミュニティ）、Web記事等

事業計画

年度	平成26年度				平成27年度				平成28年度			
	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		
カリキュラム・知識体系の設計	教育内容等											
講義（事例等）	種別：成長産業分野別の講義等											
科目・教材の開発（授業演習型）	シラバス、授業資料等											
科目・教材の開発（事例研究型）	事例研究メソッド等											
科目・教材の開発（PBL型）	事例研究メソッド等											
科目・教材の実証実験	遠隔授業、PBLキャンプ等											
教育プログラムの試行運用	事業アーキテクトコース（2年）											
社会人の学び直しのための仕組み	学修成果の記録・評価制度等											
キャリアアップのための仕組み	学修成果の記録・評価制度等											
一般対象のイベント（起業塾等）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
Web記事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
関係者対象のワークショップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
講演及び公開（外部関係者等）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
公式Webサイト	維持管理											
事業成果報告書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	



委員一覧

委員会	委員名	所属
社会人学び直し推進委員会	委員長	経営学部 教授
	委員	経営学部 教授
プログラム開発委員会	委員長	経営学部 教授
	委員	経営学部 教授

目次

- 事業概要等
 - 文部科学省委託事業 公募概要
 - 産業技術大学院大学概要
 - 背景、目的、成果目標
 - 体制・委員会構成、委員一覧
- 教育内容
 - 科目一覧
 - 新設科目
- 試行運用（「事業アーキテクト」教育プログラム）
- 一般対象イベント（起業塾等）
- 学修成果の記録・評価

教育内容

- 1年次 講義・演習型科目 24単位以上
 - 事業アーキテクトに必要なとされる知識・スキルの修得・定着
- 1年次 事例研究型科目 4単位
 - 事業開発手法の修得
- 2年次 PBL型科目（必修） 12単位
 - 成長領域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトの実行

科目一覧 1/4

- 《新規：講義・演習型科目》 事業アーキテクトチャカ科目群
 - 経営戦略特論
 - スタートアップ戦略特論
 - マーケティング特論
 - リーダーシップ特論
 - ITコミュニケーション特論
 - 事業アーキテクト特論（次世代成長産業）
- 《新規：事例研究型科目》 事業アーキテクトチャカ科目群
 - 事業アーキテクトチャカ研究（事例研究）
 - 事業アーキテクトチャカ設計（事業設計）

科目一覧 2/4

- ・〈新規: PBL型科目〉
 - ・ 事業アーキテクトチャ特別演習1
 - ・ 事業アーキテクトチャ特別演習2
- ・ 〈既存: 倫理〉 共通必修科目群
 - ・ 技術倫理
 - ・ 情報技術者倫理
- ・ 〈既存: 国際〉 専門科目群
 - ・ 国際経営特論
 - ・ 国際開発特論

科目一覧 3/4

- ・ 〈既存: 情報アーキテクトチャ専攻〉 専門科目群
 - ・ 情報ビジネス特別講義4 (事業戦略)
 - ・ 情報システム特論2 (業務改革)
 - ・ 情報アーキテクト特論2 (事業提案)
 - ・ 情報ビジネス特別講義2 (会計・財務)
 - ・ 情報ビジネス特別講義3 (組織)
 - ・ IT特論
 - ・ プロジェクト管理特別講義
 - ・ プロジェクト管理特論1
 - ・ eビジネス特論
 - ・ サービスサイエンス特論
 - ・ 情報インタフェースデザイン特論
 - ・ CIO特論
 - ・ 情報ビジネス特別講義1 (法規)
 - ・ 標準化と知的財産

科目一覧 4/4

- ・ 〈既存: 創造技術専攻〉 専門科目群
 - ・ ものづくりアーキテクト概論
 - ・ グローバルコミュニケーション特論
 - ・ 人間中心デザイン特論
 - ・ デザインマネジメント特論
 - ・ デザインシステム計画特論
 - ・ 創造設計特論
 - ・ 技術経営特論
 - ・ イノベーション戦略特論
 - ・ プロトタイプ工学特論 (3Dプリンタ)

修了要件

科目群	種別			2科目から選択
	必修	選択必修	必修	
共通必修科目群 (倫理科目)	—	2単位	—	2科目から選択
事業アーキテクトチャ科目群 (新設)	—	10単位	—	講義・演習型科目 (経営戦略特論等)、事例研究型科目の7科目から選択 (PBL型科目の履修前に単位取得の必要がある)
専門科目群 (既設)	—	—	16単位	情報アーキテクトチャ専攻または創造技術専攻の既存の専門科目から選択
事業アーキテクトチャ特別演習	12単位	—	—	PBL型科目 (2年次)

・ 2年以上在学し、定められた授業科目を40単位以上修得すること (修了要件の40単位の総授業時間数は690時間 (30時間×14科目 + 135×2科目)、総時間は1,800時間以上)

新設科目 (講義・演習型)

- ・ 戦略・経営に関する最低限の知識の修得
 - ・ 経営戦略特論
 - ・ 経営戦略の基本体系、経営思想、経営計画、事業戦略構築、組織等
 - ・ スタートアップ戦略特論
 - ・ 起業・新規事業の事業計画、資金調達、資源管理、ブランディング等
 - ・ マーケティング特論
 - ・ マーケティングの理論・応用・戦略・戦術、顧客価値等
 - ・ リーダーシップ特別講義
 - ・ リーダーの志、価値観、機能 (指示、盛り上げ、仕組み等)、事例等
 - ・ ITソリューション特論
 - ・ 課題管理、ERP、BPM、CRM、コラボレーション等、ベストプラクティスとしてのITソリューションツールの活用
- ・ 事業アーキテクトチャ特論 → 事例研究型参照

新設科目 (事例研究型等)

- ・ 事業開発・問題解決に関するメソッドの修得・経験
 - ・ 事業アーキテクトチャ特論
 - ・ 次世代成長産業の各産業の現状、課題、効率等の理解 (俯瞰)
 - ・ 観光・医療・物流・農業・スポーツ・航空産業等の7産業分野
 - ・ 事業アーキテクトチャ研究 (事例研究) 集中講義
 - ・ 既存の業務改革の成功・失敗事例の研究
 - ・ 事業アーキテクトチャ設計 (事業設計) 集中講義
 - ・ 既存の問題に対する業務改革の提案・設計 (アイディアソン)
 - ・ グループに分け (4名前後×3組)、複数の課題を繰り返し (3回) を解く。
 - ・ 事業アーキテクトチャ特別演習1及び2 (PBL型科目)
 - ・ 事業の提案・設計から、実際に開発・検証を行う。

目次

- ・ 事業概要等
 - ・ 文部科学省委託事業 公募概要
 - ・ 産業技術大学院大学概要
 - ・ 背景、目的、成果目標
 - ・ 体制・委員会構成、委員一覧
- ・ 教育内容
 - ・ 科目一覧
 - ・ 新設科目
- ・ 試行運用 (「事業アーキテクト」教育プログラム)
- ・ 一般対象イベント (起業塾等)
- ・ 学修成果の記録・評価

試行運用: 教育プログラム

- ・ 平成27年度から「事業アーキテクト」コースを新設する。
 - ・ 当事業で開発した教育プログラムの試行運用
 - ・ 定員10名程度 (各専攻5名程度)
 - ・ 事業アーキテクトチャ専攻 (定員50名)・創造技術専攻 (定員50名)
- ・ コース決定
 - ・ PBL型科目の履修
 - ・ 新しい「事業アーキテクト」コースが、従来の各専攻のコース (システムアーキテクト、テクニカルスペシャリスト等) を決める。
 - ・ 履修条件
 - ・ 事業アーキテクトチャ科目群の科目から10単位以上取得
 - ・ 講義・演習型科目 (経営戦略特論等)、事例研究型科目
- ・ 既存科目
 - ・ 各専攻で学位を出すため、既存の各専攻の専門科目から16単位以上取得する必要がある。

試行運用: 学生募集案内

▶ 次世代成長産業分野での事業開発・事業改革のための高度人材養成プログラム (「事業アーキテクト」養成)

・ 「戦略・技術」を学ぶ新しい教育プログラム (両専攻横断型)

・ 成長分野 (観光、医療、物流等) で、IT・製品開発・マネジメントを活用し、生産性・付加価値を高めるための事業開発を学ぶ。

・ 戦略: 経営、マーケティング、リーダーシップ、スタートアップ等

・ 技術: IT、デザイン、製品開発、マネジメント等

・ 事例研究: ケースメソッド等

・ PBL: プロジェクト実践

・ 対象分野の業務知識、現状・課題

・ メソッド・ツール、法規・倫理等

平成27年度から学生を募集します
定員10名 (仮)

一般対象イベント: AIIT起業塾等

- ・ 起業塾#1: 2015-03-15 日曜 14:00-18:00 (懇親会 18:00-20:00)
 - ・ 介護、水産、農業、酪農・畜産×IT
 - ・ Hikarie カンファレンス会議室1105 (渋谷)
- ・ 起業塾#2: 2015-06頃
- ・ 起業塾#3: 2015-08頃
- ・ InfoTalk#75: 2015-03-20 金曜 18:30-
 - ・ 「スマートデバイスとハードウェアの連携」
- ・ InfoTalk#76: 2015-04-17 金曜 18:30-
 - ・ 「IoT時代のデータソリューション」
- ・ July Tech Festa 2015: 2015-07頃

学修成果の記録・評価

- ・ 《従来》
 - ・ 学修成果の証明 → 学位、単位数、GPA、成績証明書 (科目名・評価)
 - ・ 問題 → 何を学んだか (修得した知識・スキル及びレベル) がわかりにくい。
 - ・ 成績証明書から科目名・成績はわかるが、内容・レベル・評価基準は大学によって様々である。また、GPAの基準は同様に様々であり、あくまで成績の平均である。
- ・ 《情報アーキテクチャ専攻の試み》 知識体系・知識単位
 - ・ 何を学んだか (修得した知識・スキル及びレベル) を客観的に示す。
 - ・ 各科目を履修することで、修得できる知識単位及びレベルを特定し、これを集約することで、何を学んだか、何が得意・専門かを示す。
 - ・ 効果 →
 - ・ 学ぶべき知識体系に対して、現在までに何を学び、何が不足しているかを逐次確認し、履修する科目を決定できる。
 - ・ 履修した科目から、自分の専門性を確認できる。

知識体系・知識単位

- ・ 知識体系は知識単位の集まりで構成される。
- ・ 知識単位は、当専攻の対象領域での標準指標に相当する「(独)情報処理推進機構 (IPA)」の「共通キャリアフレームワーク (CCSF)」を基準にしている。
- ・ 知識単位は大分類から小分類まで3段階から構成される。
 - ・ 大分類の知識単位 → K-01 (基礎理論)、K-08 (経営戦略) 等の10種類
 - ・ 中分類の知識単位 → K-01-01 (基礎理論)、K-04-12 (システム開発技術)、K-07-17 (システム戦略) 等の24種類
 - ・ 小分類の知識単位 → K-02-04-01 (システムの構成) K-06-15-05 (ファシリテータマネジメント) K-09-23-01 (知的財産権) 等の約120種類
- ・ 教育目標A1~A4 → 各2から3の大分類の知識単位
- ・ 人材像 → 各5の中分類の知識単位
- ・ 科目 → 各3から8の小分類の知識単位
- ・ 学生は単位取得科目から修得できた知識単位及びレベルを随時確認できる → <http://03gekka.appspot.com/>

知識体系・知識単位 一覧 (抜粋)

大分類	中分類	小分類
K-01 (基礎理論)	K-01-01 (基礎理論)	K-01-01-01 (情報科学)
		K-01-01-02 (応用数学)
		K-01-01-03 (情報に関する基礎)
		K-01-01-04 (倫理に関する基礎)
		K-01-01-05 (計算・情報に関する基礎)
	K-01-02 (システム)	K-01-02-01 (データベース)
		K-01-02-02 (ソフトウェア)
		K-01-02-03 (プログラミング)
		K-01-02-04 (ネットワーク)
		K-01-02-05 (その他の基礎)
K-02 (コンピュータ系)	K-02-01 (コンピュータ系)	K-02-01-01 (ハードウェア)
		K-02-01-02 (OS)
		K-02-01-03 (ネットワーク)
		K-02-01-04 (セキュリティ)
		K-02-01-05 (その他の基礎)
	K-02-02 (システム構築)	K-02-02-01 (システムの構築)
		K-02-02-02 (システムの利用)
		K-02-02-03 (オペレーティングシステム)
		K-02-02-04 (データベース)
		K-02-02-05 (ソフトウェア)
K-02-06 (ハードウェア)	K-02-06-01 (ハードウェア)	

教育目標・人材像

教育目標	知識単位	レベル	履修科目	履修単位数	履修GPA	履修成績	履修回数	履修時期	履修場所	履修形態	履修回数	履修時期	履修場所	履修形態
教育目標1 (基礎理論)	K-01-01	1	情報科学	1	2.0	2.0	1	1	1	1	1	1	1	1
教育目標2 (システム)	K-01-02	1	データベース	1	2.0	2.0	1	1	1	1	1	1	1	1
教育目標3 (コンピュータ系)	K-02-01	1	ハードウェア	1	2.0	2.0	1	1	1	1	1	1	1	1
教育目標4 (システム構築)	K-02-02	1	システムの構築	1	2.0	2.0	1	1	1	1	1	1	1	1
教育目標5 (ハードウェア)	K-02-06	1	ハードウェア	1	2.0	2.0	1	1	1	1	1	1	1	1

知識単位の修得

- ・ 科目ごとに修得できる知識単位及びレベルを設定する。
 - ・ 例: 「A3040 プロジェクト管理特論3」で修得出来る知識単位
 - ・ K-05-14-04 (プロジェクトスコープマネジメント) 修得レベル4.0
 - ・ K-05-14-05 (プロジェクト資源マネジメント) 修得レベル4.0
 - ・ K-05-14-06 (プロジェクトタイムマネジメント) 修得レベル4.0
 - ・ K-05-14-07 (プロジェクトコストマネジメント) 修得レベル4.0
 - ・ K-05-14-09 (プロジェクト品質マネジメント) 修得レベル4.0
- ・ 知識単位ごとに修得できる科目及びレベルを設定する。
 - ・ 例: K-05-14-09 (プロジェクト品質マネジメント) が修得できる科目
 - ・ 「A3010 プロジェクト管理特論1」 修得レベル3.0
 - ・ 「A3020 プロジェクト管理特別講義」 修得レベル3.0
 - ・ 「A3030 プロジェクト管理特論2」 修得レベル4.0
 - ・ 「A3040 プロジェクト管理特論3」 修得レベル4.0

修得レベル

- ・ 修得レベルの水準
 - ・ レベル4:
 - ・ 対象分野での知識・スキルを確立し、対象業務を行うことができる。下位レベルの育成を担当することができ、今後、対象分野の牽引に寄与する準備を行うことが期待される。
 - ・ 詳細項目の1/2程度がカバーしている程度を網羅レベルを想定している。
 - ・ rSSレベル4以上・成績評価値4以上相当。
 - ・ レベル3:
 - ・ 対象分野の知識・スキルを確立し、対象業務を行うことができる。
 - ・ rSSレベル3・成績評価値3相当。
 - ・ レベル2:
 - ・ 対象分野の知識・スキルをある程度確立している。上位レベルの指導下で対象業務を行うことができる。
 - ・ rSSレベル2・成績評価値2相当。

修得した知識の確認

・ 修得した知識単位の確認は随時確認できる。
<http://03gekka.appspot.com/>

データベース (12.0)

システムの構築 (12.0)

ハードウェア (12.0)

事業アーキテクトの知識単位

- ・ K-07-17 (システム戦略)
 - ・ K-07-17-01 情報システム戦略
 - ・ K-07-17-02 業務プロセス
 - ・ K-07-17-03 ソリューションビジネス
 - ・ K-07-17-04 システム活用促進・評価
- ・ K-08-21 (ビジネスインダストリ)
 - ・ K-08-21-01 ビジネスシステム
 - ・ K-08-21-02 エンジニアリングシステム
 - ・ K-08-21-03 eビジネス
 - ・ K-08-21-04 民生機器
 - ・ K-08-21-05 産業機器
- ・ K-09-22 (企業活動)
 - ・ K-09-22-01 経営・組織論
 - ・ K-09-22-02 OR・IE
 - ・ K-09-22-03 会計・財務
- ・ K-10-24 (ビジネス知識)
 - ・ K-10-24-01 顧客のビジネス知識